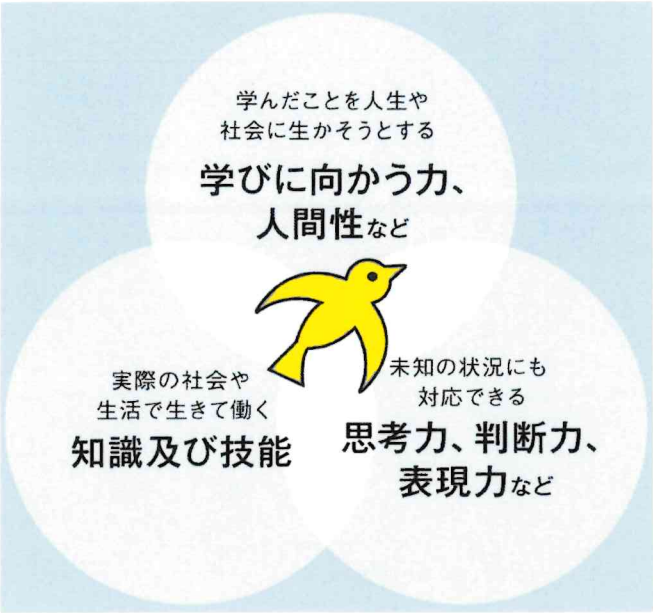
幼稚園から高校の学校教育を通して育む力

学校教育全体



※三つの力をバランスよく育みます。

幼稚園ではその基礎を育成

・知識及び技能の基礎
豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

・思考力、判断力、表現力などの基礎
気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

・学びに向かう力、人間性など
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

※遊びを通して三つの力を一体的に育みます。

幼稚園での生活を通して

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

○健康な心と体
○自立心
○協同性
○道徳性・規範意識の芽生え
○社会生活との関わり
○思考力の芽生え
○自然との関わり・生命尊重
○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
○言葉による伝え合い
○豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で，充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ，見通しをもって行動し，自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で，しなければならないことを自覚し，自分の力で行うために考えたり，工夫したりしながら，諦めずにやり遂げることで達成感を味わい，自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で，互いの思いや考えなどを共有し，共通の目的の実現に向けて，考えたり，工夫したり，協力したりし，充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で，してよいことや悪いことが分かり，自分の行動を振り返ったり，友達の気持ちに共感したりし，相手の立場に立って行動するようになる。また，きまりを守る必要性が分かり，自分の気持ちを調整し，友達と折り合いを付けながら，きまりをつくったり，守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに，地域の身近な人と触れ合う中で，人との様々な関わり方に気付き，相手の気持ちを考えて関わり，自分が役に立つ喜びを感じ，地域に親しみをもつようになる。また，幼稚園内外の様々な環境に関わる中で，遊びや生活に必要な情報を取り入れ，情報に基づき判断したり，情報を伝え合ったり，活用したりするなど，情報を役立てながら活動するようになるとともに，公共の施設を大切に利用するなどして，社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で，物の性質や仕組みなどを感じ取ったり，気付いたりし，考えたり，予想したり，工夫したりするなど，多様な関わりを楽しむようになる。また，友達の様々な考えに触れる中で，自分と異なる考えがあることに気付き，自ら判断したり，考え直したりするなど，新しい考えを生み出す喜びを味わいながら，自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して，自然の変化などを感じ取り，好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら，身近な事象への関心が高まるとともに，自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また，身近な動植物に心を動かされる中で，生命の不思議さや尊さに気付き，身近な動植物への接し方を考え，命あるものとしていたわり，大切にする気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で，数量や図形，標識や文字などに親しむ体験を重ねたり，標識や文字の役割に気付いたりし，自らの必要感に基づきこれらを活用し，興味や関心，感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で，様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりし，表現する喜びを味わい，意欲をもつようになる。

※「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）より

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する留意点

○　５領域のねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、**幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿**であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。

○　幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、**指導を行う際に考慮することが求められる**。

○　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が**到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意**する必要がある。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、**全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意**する必要がある。

○　５歳児に突然見られるようになるものではないため、**５歳児だけでなく、３歳児、４歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意**する必要がある。

小学校以降の生活や学習の基盤を育成　～子供の発達や学びをつなぐ～

遊びは幼児期にふさわしい学び

幼児期は、知識を教えられて身に付けていく時期ではありません。遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に、様々な対象と直接かかわりながら、総合的に学んでいきます。

遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、また、友達と共有したり、協力したりして、様々なことを学んでいきます。幼稚園での遊びを通して豊かな心と体を育み、学ぶ楽しさを知ります。

小学校でのスタートカリキュラム

幼児期の遊びを通した学びが、各教科等の学習につながるよう、生活科を中心とした「スタートカリキュラム」を充実しています。入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜていきます。そうして、子供はより自覚的な学びへと向かっていきます。つまり、学ぶことの意識があり、集中する時間とそうでない時間の区別がつき、自分の課題の解決に、計画的に学んでいくようになります。

●スタートカリキュラムの活動例

リズムで楽しく遊ぼう

「あひるのあくびはあ・い・う・え・お」
音読にも動きを付けて、体全体で伸び伸びと表現します。

アサガオを育てよう

友達とかかわることで、気付きが生まれます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を幼稚園と小学校で共有

写真は、国立教育政策研究所「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」より